

# 2008年 調査レポート ダイジェスト

Research Reports 2008 Digest

■女性の化粧行動・意識に関する実態調査

～スキンケア篇2008～

■女性の化粧行動・意識に関する実態調査

～メイク篇2008～

2009年4月24日

ポーラ文化研究所

POLA RESEARCH INSTITUTE OF  
BEAUTY & CULTURE

# 女性の化粧行動・意識に関する実態調査

## ～スキンケア篇 2008～

「女性の化粧行動・意識に関する実態調査」は、ポーラ文化研究所が2007年から実施している化粧の定点観測調査である。スキンケア篇では、女性のスキンケアの実行状況や化粧品へ抱く価値観などを昨年に引き続き把握、トピックテーマとして肌の老化に関する分析を盛り込んだ報告を行った。

### ■実施概要

調査時期：2008年3月  
 調査方法：インターネット調査  
 調査対象：首都圏（埼玉県,千葉県,東京都,神奈川県）に居住する15～64歳の女性1000人  
 ※中学生を除く。5歳刻み各100人で割付

### ■発行レポート

「女性の化粧行動・意識に関する実態調査 ～スキンケア篇2008～」2008年11月  
 「肌の老化に関する意識とアンチエイジング」2008年11月

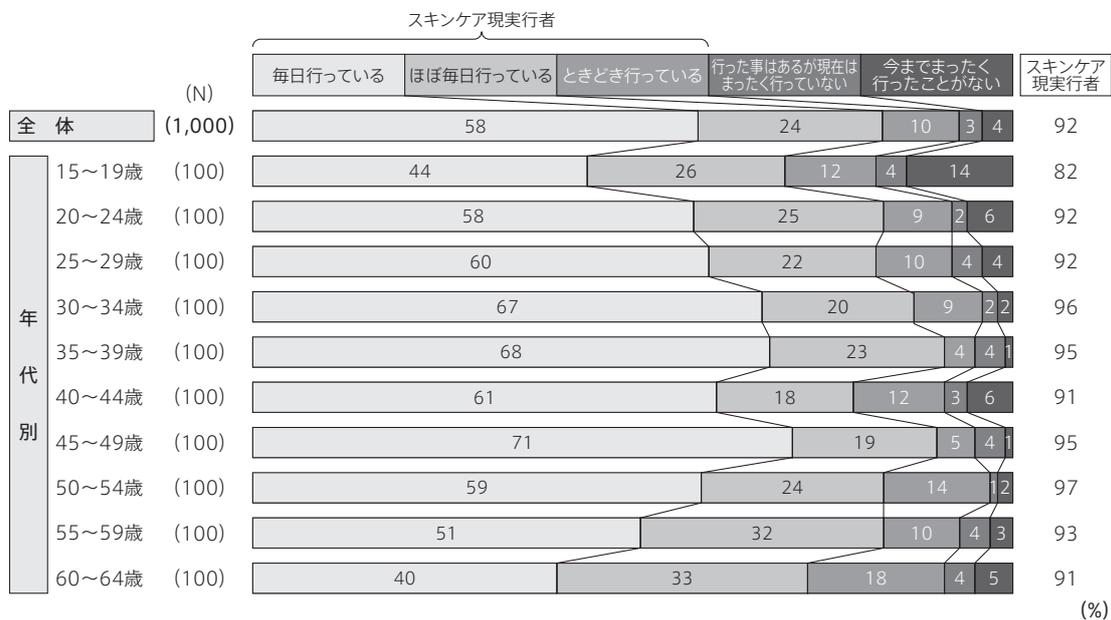
## 調査結果

### ■スキンケアを日常的に行う女性は8割。使用アイテムトップは、化粧水、洗顔料

女性がスキンケアを行う頻度をみると、スキンケア現実行者（毎日+ほぼ毎日+ときどき行っている）は全体の92%、日常的に行う人（毎日+ほぼ毎日）は82%【図表1】。

年代別にみると、10代後半と60代前半では「毎日行っている」人が4割程度であるものの、20代～50代前半では「毎日行っている」人が約6割以上に達している。

【図表1 ふだんの生活でスキンケアを行う頻度（基数：対象者全員 1000人）】

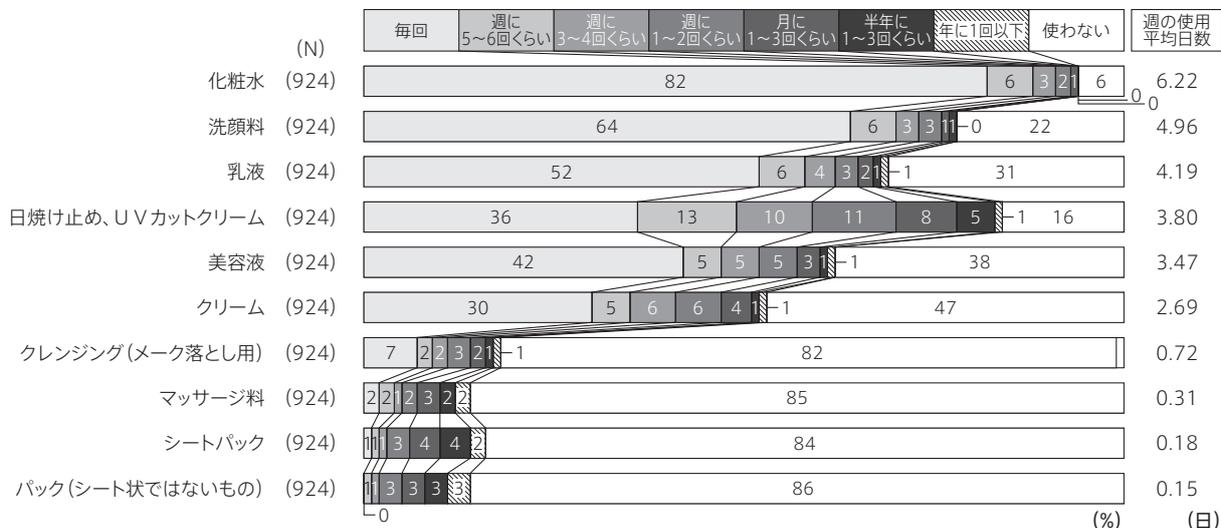


■朝夜の使用スキンケアアイテム上位は「化粧水」「洗顔料」

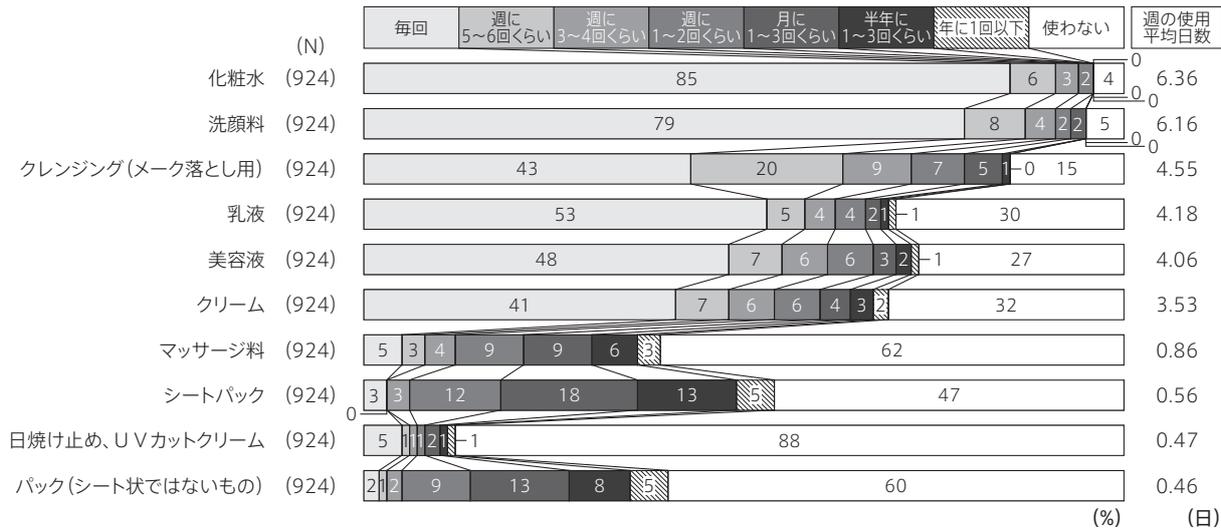
スキンケア現実行者に、朝（1日のはじめ）のスキンケアアイテム使用頻度をたずねたところ、「化粧水」は82%、「洗顔料」は64%、「乳液」は52%が毎日使用している状況であった【図表2】。一方、夜（1日のおわり）のスキンケアアイテム使用頻度をみると、「化粧水」は85%、「洗顔料」は79%が毎日使用している【図表3】。

朝と夜のスキンケアアイテムの使用頻度をくらべると、「日焼け止め、UVカットクリーム」以外のアイテムでは「毎回」の使用率や平均日数が朝より夜の方が大きい状況。特に、「洗顔料」「クレンジング」の洗浄アイテム、「美容液」「クリーム」「マッサージ料」「シートパック」「パック（シート状でないもの）」において朝夜の使用頻度の差が大きい。

【図表2 朝（1日のはじめ）のスキンケアアイテム使用頻度（基数：スキンケア現実行者 924人）】



【図表3 夜（1日のおわり）のアイテム使用頻度（基数：スキンケア現実行者 924人）】

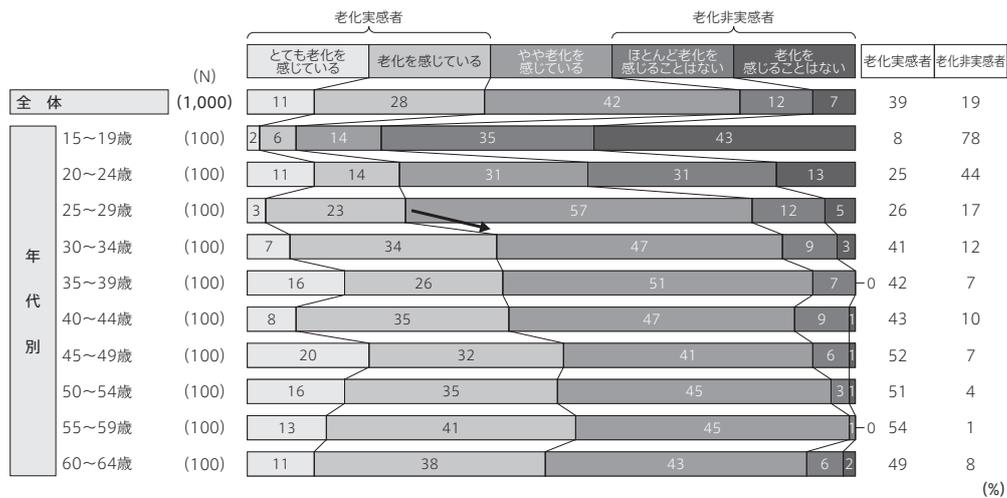


※週の平均日数は次のウエイト付けで算出した。  
 「毎回」=7、「週に5~6回くらい」=5.5、「週に3~4回くらい」=3.5、「週に1~2回くらい」=1.5、「月に1~3回くらい」=0.47、「半年に1~3回くらい」=0.08、「年に1回以下」=0.019、「使わない」=0

■20代と30代を境に、肌の老化を強く感じる人が増えている

女性全体の約4割が肌の老化実感者（とても老化+老化を感じている）【図表4】。「やや老化を感じている」を含めると、8割以上が老化を感じている。年代が高い層で老化実感者が多く、20代と30代を境に、肌の老化実感者が増加している（20代後半26%→30代前半41%）。成長期にあたる10代後半では、老化実感者は8%と僅少。加齢とともに老化を実感している様子が確認できる。

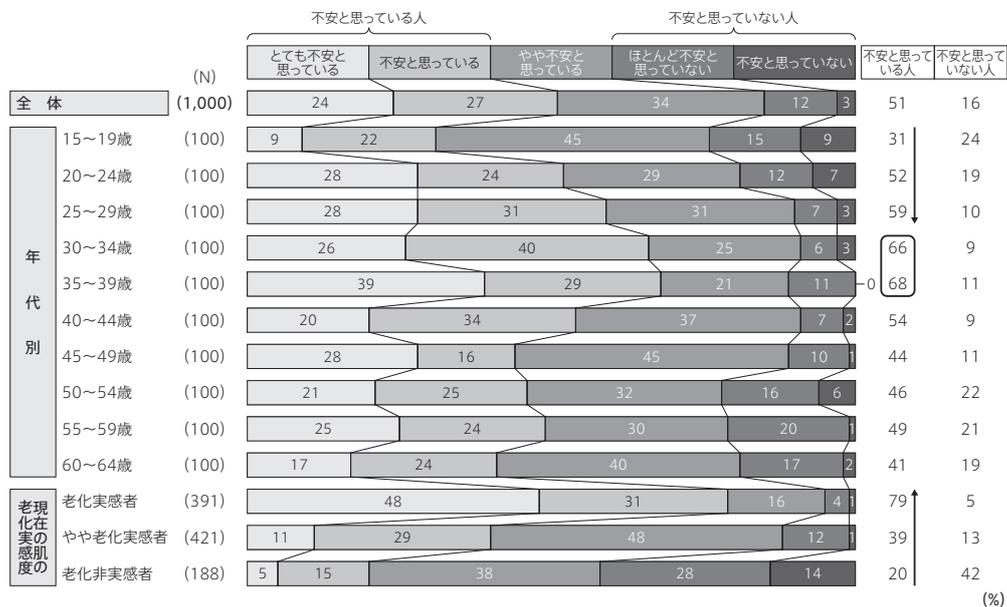
【図表4 現在の肌の老化実感度（基数：対象者全員 1000人）】



■30代をピークに年齢を重ねるほど将来の肌の老化を不安に思う人が増加

女性全体の5割が、将来の肌の老化を不安（とても不安+不安と思っている）と思っており、「やや不安と思っている」を含めると、8割以上に達する【図表5】。年代別にみると、10~30代では年齢を重ねるほど肌の老化を不安と思う人が多くなり、30代では肌の老化を不安に思う人が66~68%に達する。40~50代においても半数程度が不安と思っている。また、老化を実感している人ほど将来の老化に不安を感じている。

【図表5 将来の肌の老化不安度（基数：対象者全員 1000人）】



■年齢を重ねると「たるみ」「小ジワ・シワ」「ハリのないさ」実感者が増加

肌の老化を感じている人に、どのような老化現象を感じているかたずねたところ、30～40代では「シミ・そばかす」が1～2位であったが、年代が上がると「たるみ」「小ジワ・シワ」「ハリのないさ」を感じる人が増え、50代以上では上位3位に入る【図表6】。年齢を重ねた年代では、「たるみ」「小ジワ・シワ」「ハリのないさ」といった、特定の老化現象に実感が集中している。

【図表6 実感している肌の老化現象 上位順位表（基数：肌の老化をととも～やや感じている人 812人）】

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	小ジワ・シワ	シミ・そばかす	たるみ	ハリのないさ	かさつき・乾燥	くすみ	毛穴の開きの目立ち	目のまわりのクマ	ホウレイセンの目立ち	毛穴の汚れの目立ち
(812)	54	53	53	49	43	42	40	35	34	28
15～19歳	吹き出物・ニキビ	かさつき・乾燥	肌荒れ	シミ・そばかす	毛穴の開きの目立ち	毛穴の汚れの目立ち	脂っぼさ	目のまわりのクマ	小ジワ・シワ	肌が敏感
(22)	46	41	41	36	36	27	23	23	18	18
20～24歳	かさつき・乾燥	吹き出物・ニキビ	毛穴の汚れの目立ち	目のまわりのクマ	毛穴の開きの目立ち	肌荒れ	肌のキメが細かい	化粧のりが悪い	シミ・そばかす	くすみ
(56)	64	61	57	52	46	45	43	41	38	34
25～29歳	かさつき・乾燥	毛穴の開きの目立ち	シミ・そばかす	目のまわりのクマ	毛穴の汚れの目立ち	化粧のりが悪い	小ジワ・シワ	吹き出物・ニキビ	くすみ	ハリのないさ
(83)	55	52	47	42	39	39	35	34	33	29
30～34歳	シミ・そばかす	小ジワ・シワ	かさつき・乾燥	ハリのないさ	くすみ	毛穴の開きの目立ち	目のまわりのクマ	化粧のりが悪い	たるみ	毛穴の汚れの目立ち
(88)	55	49	43	41	41	41	41	40	36	33
35～39歳	シミ・そばかす	小ジワ・シワ	毛穴の開きの目立ち	たるみ	ハリのないさ	くすみ	肌のキメが細かい	かさつき・乾燥	毛穴の汚れの目立ち	ホウレイセンの目立ち
(93)	62	60	60	52	51	51	47	45	42	34
40～44歳	小ジワ・シワ	シミ・そばかす	たるみ	かさつき・乾燥	くすみ	毛穴の開きの目立ち	ハリのないさ	化粧のりが悪い	ホウレイセンの目立ち	肌のキメが細かい
(90)	59	58	54	50	49	49	44	38	37	37
45～49歳	シミ・そばかす	たるみ	小ジワ・シワ	ハリのないさ	かさつき・乾燥	毛穴の開きの目立ち	くすみ	ホウレイセンの目立ち	化粧のりが悪い	目のまわりのクマ
(93)	69	67	63	58	47	46	44	39	26	26
50～54歳	たるみ	ハリのないさ	小ジワ・シワ	シミ・そばかす	くすみ	目のまわりのクマ	かさつき・乾燥	ホウレイセンの目立ち	毛穴の開きの目立ち	化粧のりが悪い
(96)	65	65	63	50	42	40	37	35	24	23
55～59歳	たるみ	ハリのないさ	小ジワ・シワ	シミ・そばかす	くすみ	ホウレイセンの目立ち	目のまわりのクマ	かさつき・乾燥	毛穴の開きの目立ち	化粧のりが悪い
(99)	77	65	63	55	51	41	40	31	29	19
60～64歳	たるみ	小ジワ・シワ	ハリのないさ	シミ・そばかす	くすみ	ホウレイセンの目立ち	目のまわりのクマ	かさつき・乾燥	毛穴の開きの目立ち	肌のキメが細かい
(92)	71	65	63	41	39	38	27	23	19	15

(%)

■ 「小ジワ・シワ」は年代にかかわらず不安に思う老化現象

不安に思う将来の肌の老化現象をみると、「小ジワ・シワ」は年代にかかわらず不安に思う老化現象の上位3位内に入り、20代以上の6割以上が不安と思っている【図表7】。一方、「たるみ」「ハリのないさ」は年代が上がるほど不安上位に入り、40代以上では「たるみ」「小ジワ・シワ」「ハリのないさ」が不安に思う老化現象トップ3、「たるみ」は40代後半以上では1位となっている。

【図表7 将来不安に思う肌の老化現象 上位順位表（基数：対象者全員 1000人）】

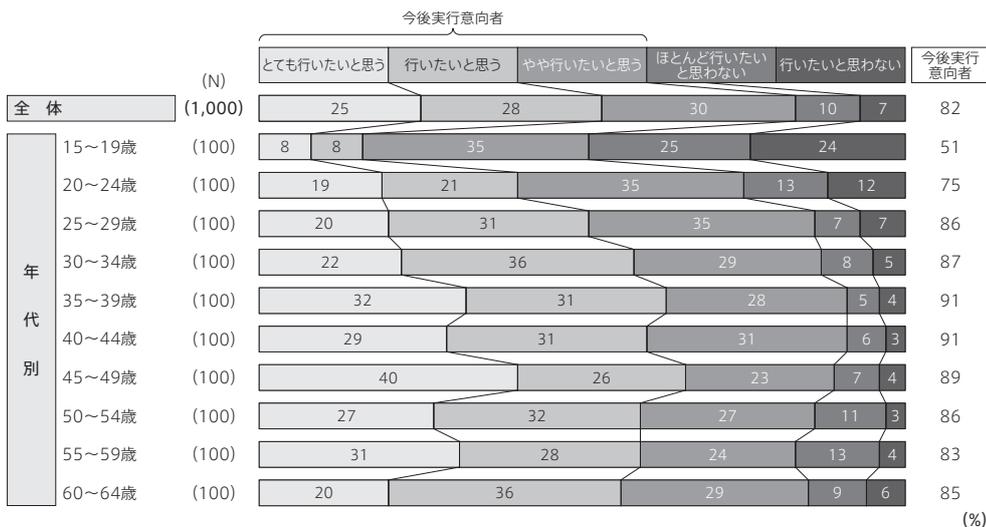
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	小ジワ・シワ	たるみ	シミ・そばかす	ハリのないさ	ホウレイセンの目立ち	くすみ	毛穴の開きの目立ち	かさつき・乾燥	目のまわりのクマ	毛穴の汚れの目立ち
(1000)	62	60	54	52	43	41	36	36	31	27
15～19歳	小ジワ・シワ	シミ・そばかす	吹き出物・ニキビ	毛穴の開きの目立ち	たるみ	毛穴の汚れの目立ち	かさつき・乾燥	特になし	目のまわりのクマ	ハリのないさ
(100)	38	38	35	26	23	23	23	21	18	17
20～24歳	小ジワ・シワ	毛穴の汚れの目立ち	シミ・そばかす	くすみ	たるみ	目のまわりのクマ	毛穴の開きの目立ち	ハリのないさ	かさつき・乾燥	肌荒れ
(100)	60	53	52	48	46	46	45	42	42	38
25～29歳	シミ・そばかす	小ジワ・シワ	たるみ	かさつき・乾燥	くすみ	ハリのないさ	ホウレイセンの目立ち	毛穴の開きの目立ち	目のまわりのクマ	毛穴の汚れの目立ち
(100)	65	60	49	45	44	41	39	39	34	31
30～34歳	小ジワ・シワ	シミ・そばかす	たるみ	ハリのないさ	ホウレイセンの目立ち	くすみ	かさつき・乾燥	毛穴の開きの目立ち	化粧のりが悪い	目のまわりのクマ
(100)	65	65	59	56	48	46	43	40	36	34
35～39歳	小ジワ・シワ	シミ・そばかす	たるみ	ハリのないさ	ホウレイセンの目立ち	くすみ	毛穴の開きの目立ち	かさつき・乾燥	肌のキメが荒い	毛穴の汚れの目立ち
(100)	73	72	71	60	52	52	51	48	43	38
40～44歳	小ジワ・シワ	たるみ	ハリのないさ	ホウレイセンの目立ち	シミ・そばかす	毛穴の開きの目立ち	くすみ	かさつき・乾燥	肌のキメが荒い	化粧のりが悪い
(100)	71	65	59	55	55	49	42	40	40	33
45～49歳	たるみ	ハリのないさ	小ジワ・シワ	シミ・そばかす	ホウレイセンの目立ち	くすみ	毛穴の開きの目立ち	かさつき・乾燥	目のまわりのクマ	肌のキメが荒い
(100)	68	65	62	60	52	48	36	36	27	24
50～54歳	たるみ	小ジワ・シワ	ハリのないさ	ホウレイセンの目立ち	シミ・そばかす	くすみ	目のまわりのクマ	かさつき・乾燥	毛穴の開きの目立ち	肌のキメが荒い
(100)	67	59	56	47	43	39	29	28	23	21
55～59歳	たるみ	小ジワ・シワ	ハリのないさ	ホウレイセンの目立ち	シミ・そばかす	くすみ	目のまわりのクマ	毛穴の開きの目立ち	かさつき・乾燥	化粧のりが悪い
(100)	82	64	58	50	48	42	34	31	30	22
60～64歳	たるみ	小ジワ・シワ	ハリのないさ	ホウレイセンの目立ち	シミ・そばかす	くすみ	目のまわりのクマ	かさつき・乾燥	毛穴の開きの目立ち	毛穴の汚れの目立ち/肌
(100)	71	67	62	42	42	37	31	21	17	13

(%)

■20代の若年層でもアンチエイジング目的のスキンケアに高い実行意向

肌のアンチエイジング目的のスキンケアを行いたい意向をみると、今後実行意向者は女性全体の82%【図表8】。年代別にみると、今後実行意向者は10代後半から20代後半にかけて急激に多くなっており（10代後半51%→20代後半86%）、20代後半以上では8割以上が今後実行意向者となっている。

【図表8 アンチエイジング目的スキンケア意向（基数：対象者全員 1000人）】

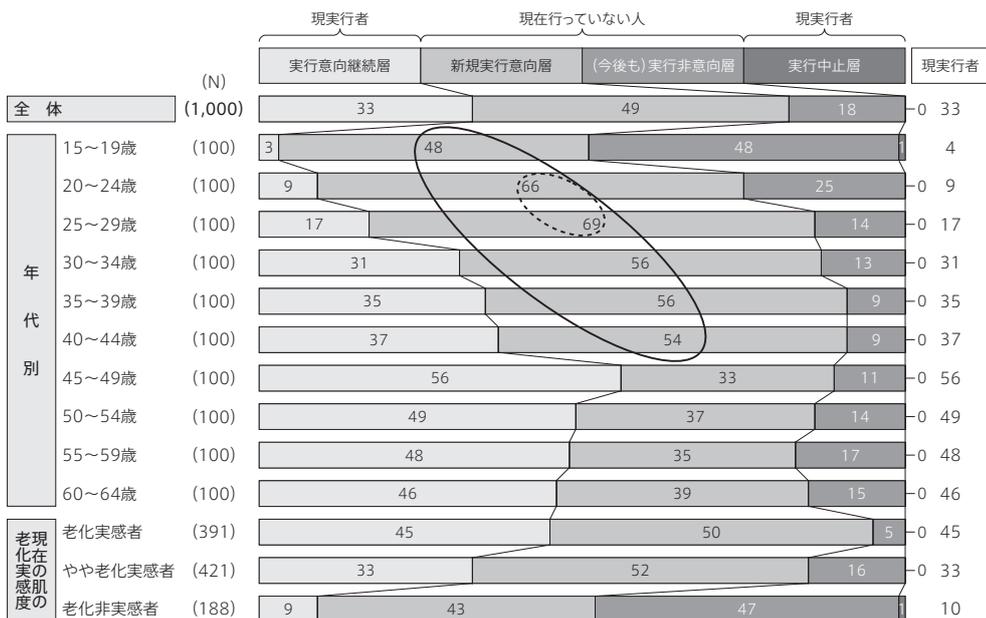


(%)

アンチエイジング目的のスキンケアを行っている現実行者は女性全体の33%【図表9】。年代が高い層や、現在の肌の老化を実感している人ほどアンチエイジング目的のスキンケアを行っている人が多い。

また、現在は行っていないが、今後アンチエイジング目的のスキンケアを行いたいと思っている新規実行意向層は40代前半以下の年代の約半数以上を占めており、20代の若年層では66~69%と特に多い。

【図表9 アンチエイジング目的スキンケアの現実行状況と今後意向（基数：対象者全員 1000人）】

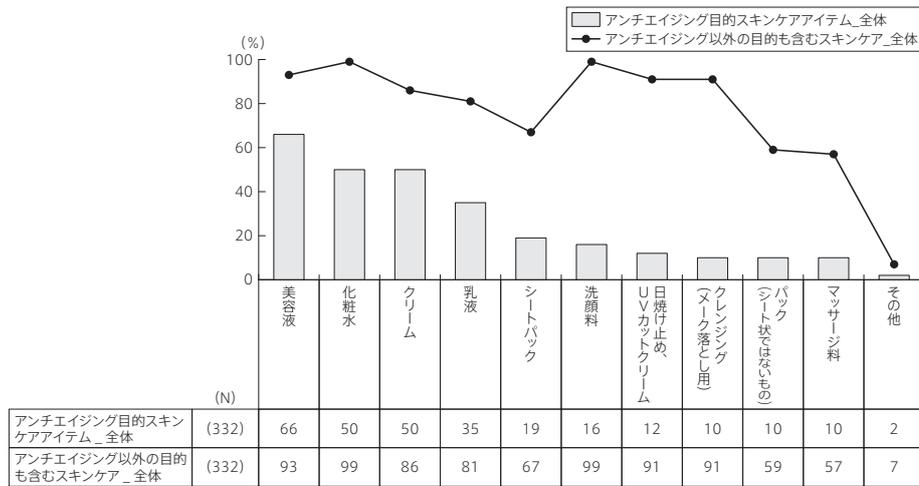


(%)

■アンチエイジング目的のスキンケアアイテム使用率トップは「美容液」

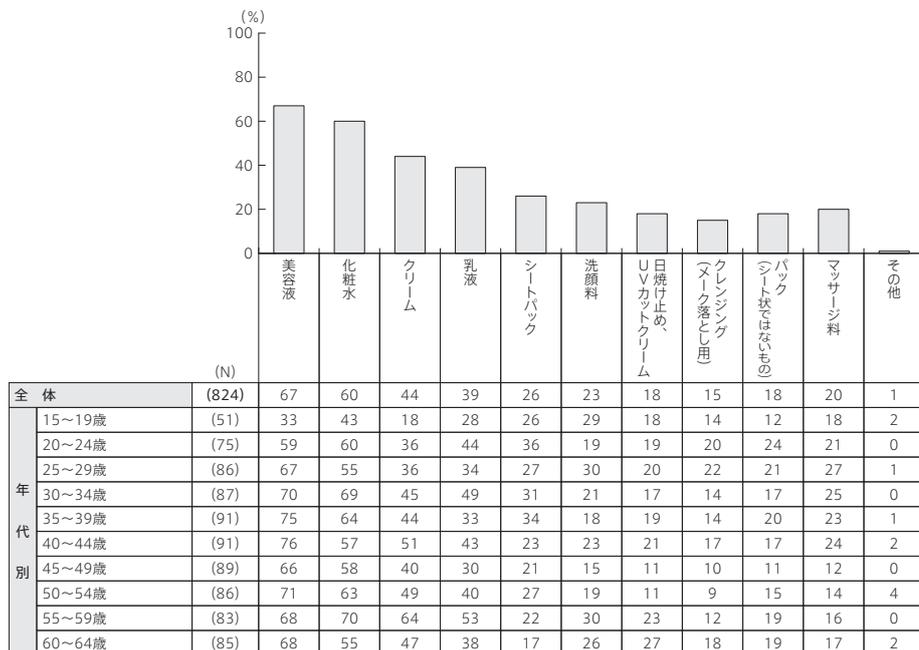
アンチエイジング目的のスキンケアの現実行者が現在使っているスキンケアアイテムをみると、最も使われているアンチエイジング目的のスキンケアアイテムは「美容液」(66%)、次いで「化粧水」(50%)、「クリーム」(50%)が続く【図表10】。現在使っているスキンケアアイテム(アンチエイジング以外の目的も含むスキンケアアイテム)と比較すると、「洗顔料」「クレンジング」といった洗浄アイテムや「日焼け止め、UVカットクリーム」では、アンチエイジング目的のスキンケアアイテムとしての使用割合が特に低い。

【図表10 使用スキンケアアイテム(基数:アンチエイジング目的スキンケア現実行者 332人)】



アンチエイジング目的のスキンケア今後実行意向者が今後使用したいアンチエイジング目的のスキンケアアイテムをみると、全体の6割以上が「美容液」「化粧水」、4割が「クリーム」「乳液」を使いたいと回答【図表11】。

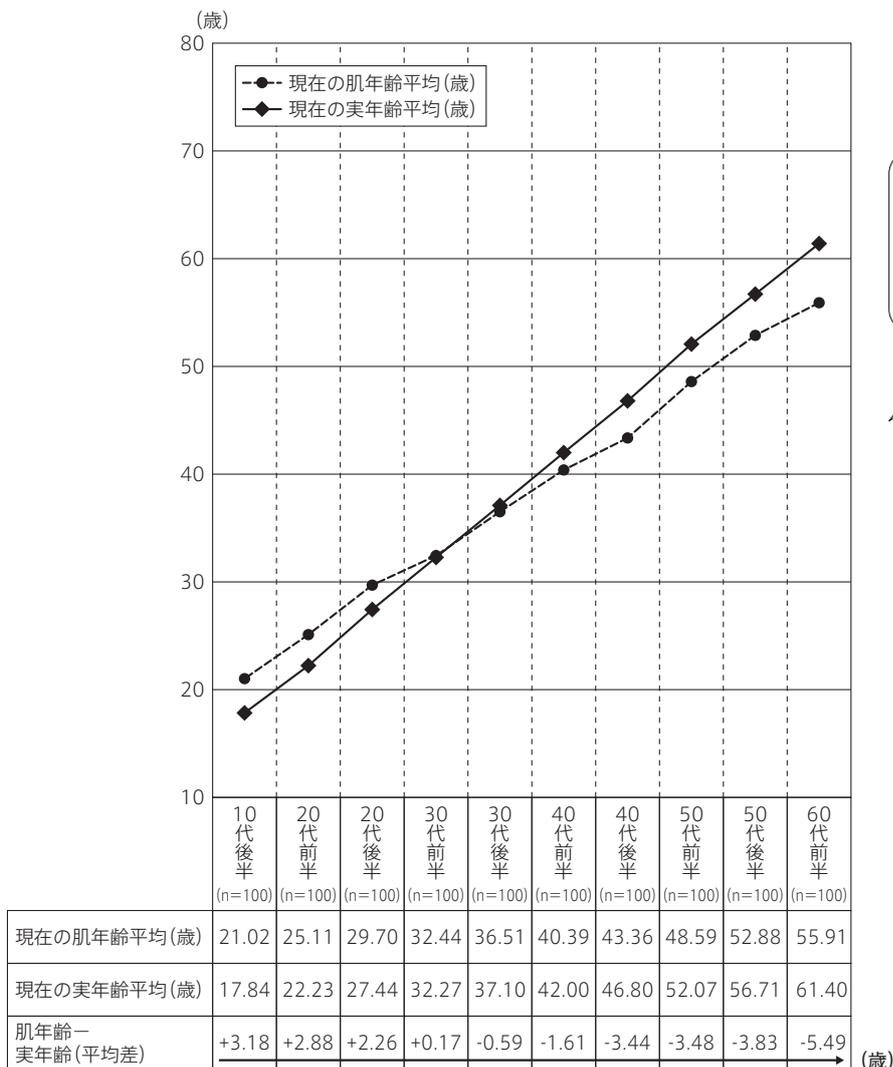
【図表11 今後使用したいアンチエイジング目的のスキンケア化粧品アイテム(基数:アンチエイジング目的スキンケア今後実行意向者 824人)】



■年齢を重ねて老化を実感しつつも、肌年齢は実年齢より若いと思う現代女性

女性は年代が高い層で老化実感者が多くなっていると述べたが（参照：図表4）、年代が上がるほど、自分自身で感じている肌年齢は実年齢より年下と思う人が増えている。30代後半以上の年代では、現在の肌年齢の平均は実年齢より年下となっている【図表12】。

【図表12 現在の肌年齢と現在の実年齢\_平均（基数：対象者全員 1000人）】



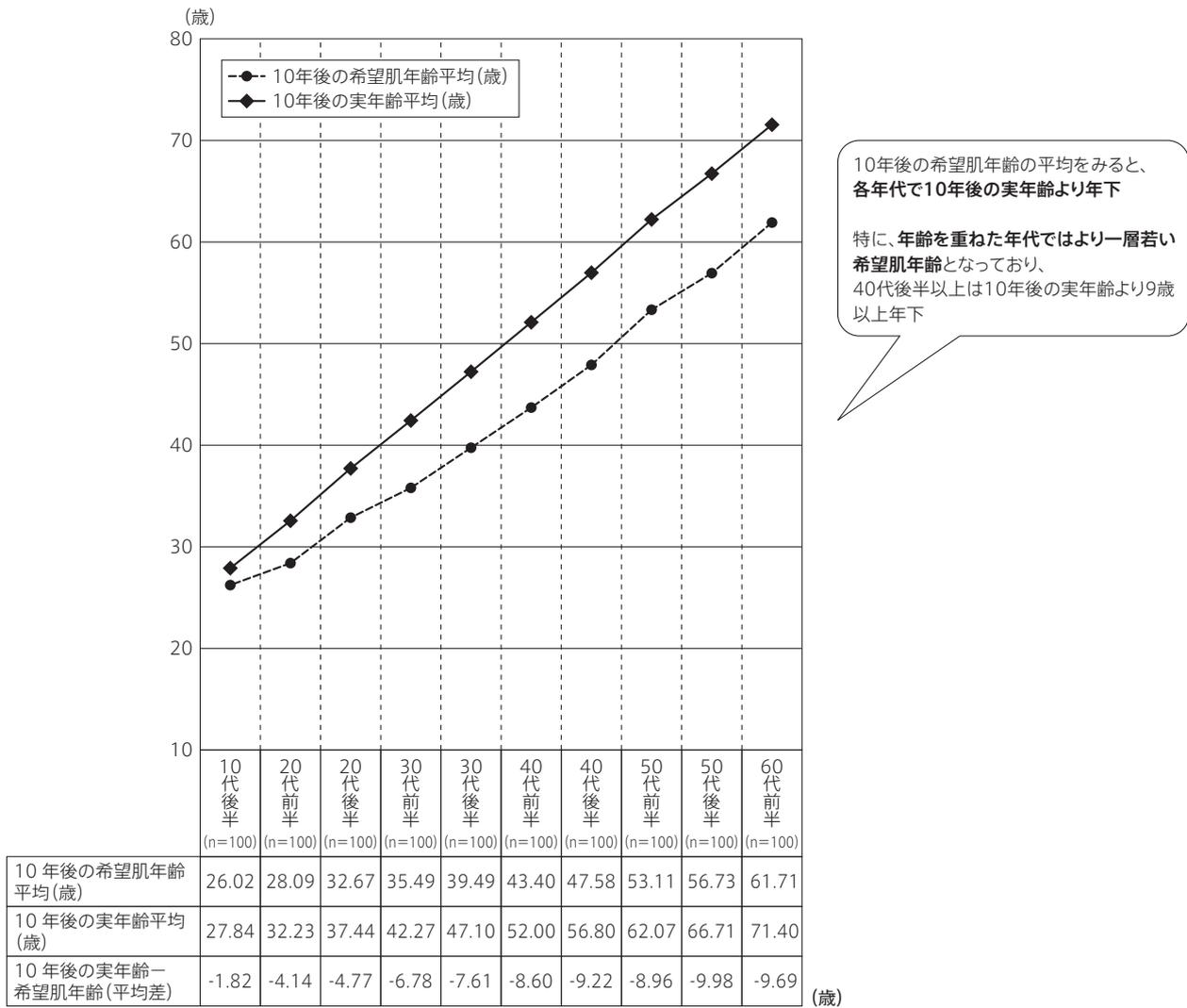
現在の肌年齢の平均をみると  
20代以下は実年齢より2歳以上年上、  
30代は 実年齢±1歳内、  
40代以上は実年齢より1.6歳以上年下  
**30代が肌年齢意識の変化時期とみられる**

■多くの女性がスキンケアによって将来の肌年齢を若くしたいと思っている

スキンケアによって、10年後に手に入れたい肌年齢（希望肌年齢）の平均をみると、各年代で10年後の実年齢より年下となっている【図表13】。

また、年代が高い層では10年後の実年齢より希望肌年齢を10歳以上年下にしたいと思う人が特に多く、実年齢との乖離が大きく、将来の肌年齢をより一層若くしたい人が多い状況。年齢を重ね、老化を実感したからといって、女性の『若い肌年齢志向』は失われていないとかがえる。

【図表13 10年後の希望肌年齢と10年後の実年齢\_平均（基数：対象者全員 1000人）】



# 女性の化粧行動・意識に関する実態調査

## ～メイク篇 2008～

メイク篇では、女性1500人を対象に、メイクの実行状況や、化粧品へ抱く価値観、メールを行う理由などを昨年に引き続き把握、新たにメイクを行うことへの好意度について質問した。また、1991年からの過去の調査データも用いて、メイク所要時間の変化状況を加えた分析報告も行った。

### ■実施概要

調査時期：2008年8月  
 調査方法：インターネット調査  
 調査対象：首都圏（埼玉県,千葉県,東京都,神奈川県）  
 に居住する15～64歳の女性1500人  
 ※中学生を除く。5歳刻み各150人で割付

### ■発行レポート

「女性の化粧行動・意識に関する実態調査 ～メイク篇2008～」2009年2月  
 「おしゃれ意識からみる現代女性」2009年2月  
 「女性の美容行動への意識と状況」2009年2月  
 「現代女性のメイク所要時間」2009年3月  
 「女性がメイクを行う場所」2009年3月

## 調査結果

### ■若い女性は特にメイクが好き！年齢を重ねた年代でも、約半数がメイク好き

女性全体の58%が、メイクが好きな人（非常に好き+やや好き）【図表1】。年代別では、20代以下の年代ではメイクが好きな人が7割近くに達しており、若年層の多くがメイクを行うことが好きだと思っている状況。一方、30代以上の年代でも約半数以上が、メイクを行うことが好きと回答。

【図表1】メイクを行うことへの好意度（基数：対象者全員 1500人）

	(N)	メイクが好きな人				メイクが好きな人
		非常に好きである	やや好きである	あまり好きではない	非常に好きではない	
全体	(1,500)	14	44	33	8	58
年代別	15～19歳 (150)	21	45	27	7	67
	20～24歳 (150)	23	44	23	11	67
	25～29歳 (150)	17	53	21	9	69
	30～34歳 (150)	21	35	35	9	56
	35～39歳 (150)	14	35	42	9	49
	40～44歳 (150)	12	41	37	9	53
	45～49歳 (150)	11	46	35	9	57
	50～54歳 (150)	9	48	37	6	57
	55～59歳 (150)	8	48	36	8	56
60～64歳 (150)	7	45	39	8	53	

(%)

■メイクを日常的に行う人は6割、メイクが好きな人ほど行う頻度が高い

女性全体のメイクを行う頻度をみると、現在メイクを行うメイク現実行者（毎日+ほぼ毎日+ときどき行っている）は全体の85%【図表2】。日常的（毎日+ほぼ毎日）に行っている人は約6割。また、メイクが非常に好きな人では、日常的に行う人が93%。メイクが好きな人ほど、メイクを頻繁に行っている状況。

【図表2 メイクを行う頻度（基数：対象者全員 1500人）】

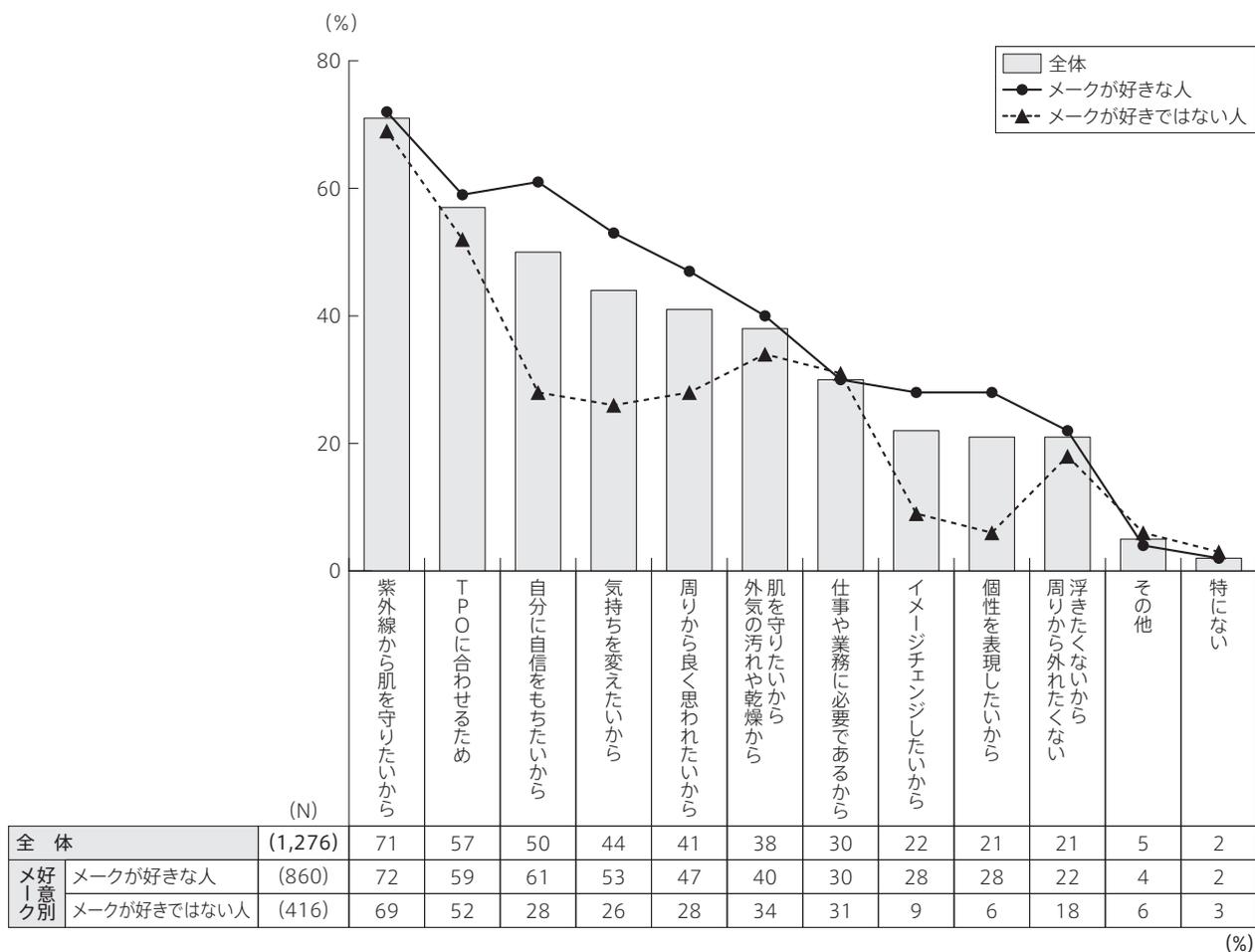
	(N)	メイク現実行者						毎日+ほぼ毎日実行者	メイク現実行者	
		毎日メイクを行っている	ほぼ毎日メイクを行っている	ときどきメイクを行っている	行ったことはあるが、現在は行っていない	今まで特別なときしかメイクをしたことがない	今までメイク自体をまったく行ったことがない			
2008年_全体	(1,500)	25	38	22	4	8	3	63	85	
年 代 別	15～19歳	(150)	23	37	18	3	9	10	60	78
	20～24歳	(150)	26	43	13	5	8	5	69	82
	25～29歳	(150)	28	43	19	2	5	3	71	90
	30～34歳	(150)	25	40	24	2	7	1	65	89
	35～39歳	(150)	23	33	25	5	12	1	57	82
	40～44歳	(150)	26	37	23	5	6	2	63	87
	45～49歳	(150)	25	43	20	3	9	1	67	87
	50～54歳	(150)	29	40	21	4	5	1	69	91
	55～59歳	(150)	19	38	27	5	9	1	57	85
	60～64歳	(150)	26	29	25	7	11	1	55	80
好 意 別	メイクが非常に好きな人	(215)	60	33	7	0	0	0	93	100
	メイクがやや好きな人	(661)	29	49	20	1	0	0	78	98
	メイクがあまり好きではない人	(498)	10	34	32	8	13	2	45	77
	メイクが非常に好きではない人	(126)	2	8	16	12	41	21	10	26

(%)

■メイクを行う理由のトップは「紫外線から肌を守りたい」

メイク現実行者のメイクを行う理由は「紫外線から肌を守りたい」という肌の保護目的が71%でトップ【図表3】。次いで「TPOに合わせるため」「自分に自信をもちたい」が続く。メイク好意別にみると、メイクが好きな人は、「自分に自信をもちたい」「気持ちを変えたい」「イメージチェンジしたい」「個性を表現したい」といった自身のマインドや自己表現に寄ったメイクを行う理由が全体より多い。

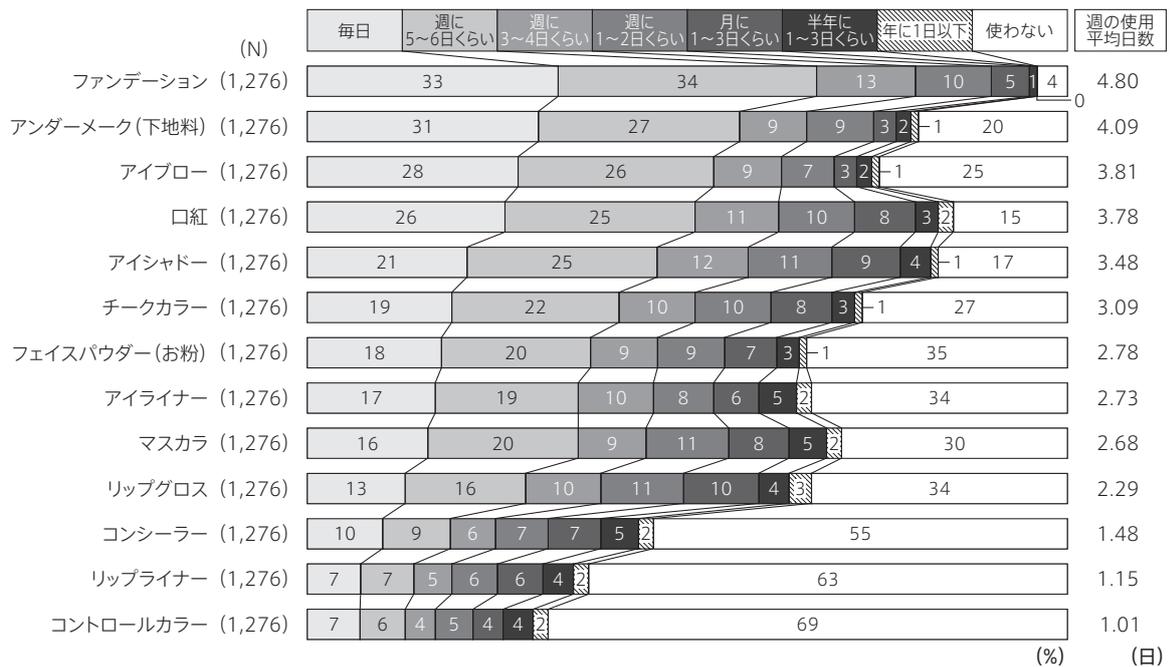
【図表3 メイクを行う理由（基数：メイク現実行者 1276人）】



■使用メイクアイテムトップは「ファンデーション」

メイク現実行者のメイクアイテムの使用頻度（化粧直しを除く）をみると、「ファンデーション」を週5日以上使っている人は67%と過半数に達する【図表4】。週5回以上使っているメイクアイテムは、次いで「アンダーメイク」「アイブロー」が続く。「アンダーメイク」「アイブロー」は、使わない人が2割程度いるものの、使う人では高い頻度で使用するアイテムとなっている。

【図表4 メイクアイテム使用頻度 ※化粧直し時の使用を除く（基数：メイク現実行者 1276人）】



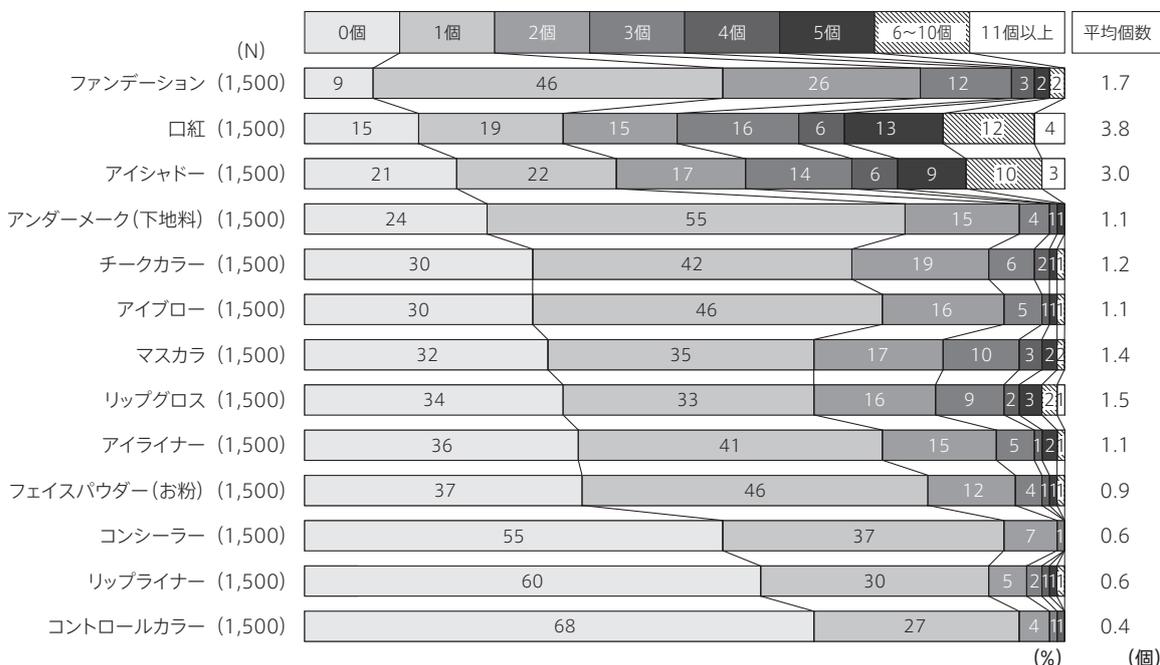
※週の平均日数は次のウエイト付けで算出した。  
 「毎回」=7、「週に5~6回くらい」=5.5、「週に3~4回くらい」=3.5、「週に1~2回くらい」=1.5、「月に1~3回くらい」=0.47、「半年に1~3回くらい」=0.08、「年に1回以下」=0.019、「使わない」=0

■女性が持っているメイクアイテムは平均19個。口紅、アイシャドーの数が多い

女性全体では、平均約19個のメイクアイテムを持っている。メイクが好きな人ほど持っているメイクアイテムの個数が多く、メイクが非常に好きな人は平均約31個に達している。

各メイクアイテム別に、持っている個数をみると、最も多くの人を持っているアイテムは「ファンデーション」【図表5】。「ファンデーション」は、女性の9割が1個以上持っており、平均約2個となっている。「口紅」「アイシャドー」はそれぞれ複数個持っている人が多く、2個以上持っている人が6割以上に達している。持っている平均個数は「口紅」約4個、「アイシャドー」約3個である。

【図表5 持っているメイクアイテム個数（基数：対象者全員 1500人）】



■女性のメイク所要時間は、年々長くなっている。17年前とくらべて3倍以上に！

ポーラ文化研究所で行った91～03年の調査データとあわせて、朝のメイク所要時間をみると、現代女性のメイクにかかる時間は、年々長くなっている状況【図表6】。

91年の調査では、メイク所要時間11分以上の女性は全体の15%にとどまっていたが、今回（08年）の調査ではメイク所要時間11分以上の女性は50%に達し、91年の調査とくらべて3倍以上となっている。

【図表6 朝（1日はじめ）のメイク所要時間\_1991年～2008年】

(N)	31分以上	21～30分	11～20分	6～10分	5分以下	所要時間 11分以上
2008年(15～64歳) (1,500)	4	12	35	24	26	50
2003年(15～64歳) (910)	2	6	22	39	31	30
2000年(15～64歳) (910)	4	16	46		34	20
1997年(15～64歳) (1,150)	3	14	46		36	18
1994年(16～65歳) (1,050)	1	2	14	40	44	16
1991年(15～64歳) (1,300)	2	12	39	46		15

(%)

※91年～03年の調査は、ポーラ文化研究所実施「おしゃれ白書調査」（訪問面接調査）のデータを用いた。08年調査対象者の年齢構成比に近づけるため、ウエイトをつけて集計した。ただしサンプル数は、回答者の実数を表記。なお、図表6以外のグラフは、すべて08年の調査データ。

■若い人、メイクが好きな人は時間をかけてメイクを行っている。

朝のメイク所要時間を年代別にみると、20代以下を中心とする若い年代は所要時間が長い人が多い【図表7】。また、メイクを行うことが好きな人もメイク所要時間が長い。

また、メイクに時間をかける人は、多くの化粧品を使っており、ファンデーションなどのベースメイクやリップメイクだけでなく、アイライナーやマスカラなどのアイメイクも行う人が多い。長くなったメイク時間には、化粧品の品目数増加やメイク方法の多様化といった背景がうかがえる。

【図表7 朝（1日はじめ）のメイク所要時間\_2008年詳細】

(N)	31分以上	21～30分	11～20分	6～10分	1～5分	0分行わない	所要時間 11分以上	
2008年_全体 (1,500)	4	12	35	24	12	15	50	
年 代 別	15～19歳 (150)	5	18	36	15	4	22	59
	20～29歳 (300)	7	15	36	19	9	14	58
	30～39歳 (300)	5	10	34	22	14	14	50
	40～49歳 (300)	3	8	37	28	11	13	48
	50～64歳 (450)	1	10	32	27	15	15	43
メ 好 い 意 図 別	非常に好きな人 (215)	12	22	51	13	2	85	
	やや好きな人 (661)	4	15	41	28	10	60	
	好きではない人 (624)	1	5	22	17	33	28	

(%)

■メイクに所要時間は、年齢を重ねた年代ほど「このままでよい」と思っている

メイク現実行者にメイクに所要時間に対する今後の意向をたずねたところ、7割がこのままの時間でよいと回答した【図表8】。

年代別にみると、若い年代ほど、もっと時間をかけてメイクをしたい人と、もっと時間をかけずにメイクをしたい人が多くなる。このままの時間でよいと思う人は年齢を重ねた年代ほど多くなっており、若年層は相反する意向を持つ人たちが同じ年代の中に並存している。

1日はじめのメイク所要時間別にみると、メイク所要時間が長い人ほどもっと時間をかけずにメイクをしたい人が多く、メイク所要時間が短い人ほどこのままの時間でよい人が多くなっている。

【図表8 「1日はじめのメイク」所要時間への今後意向 (基数：メイク現実行者 1276人)】

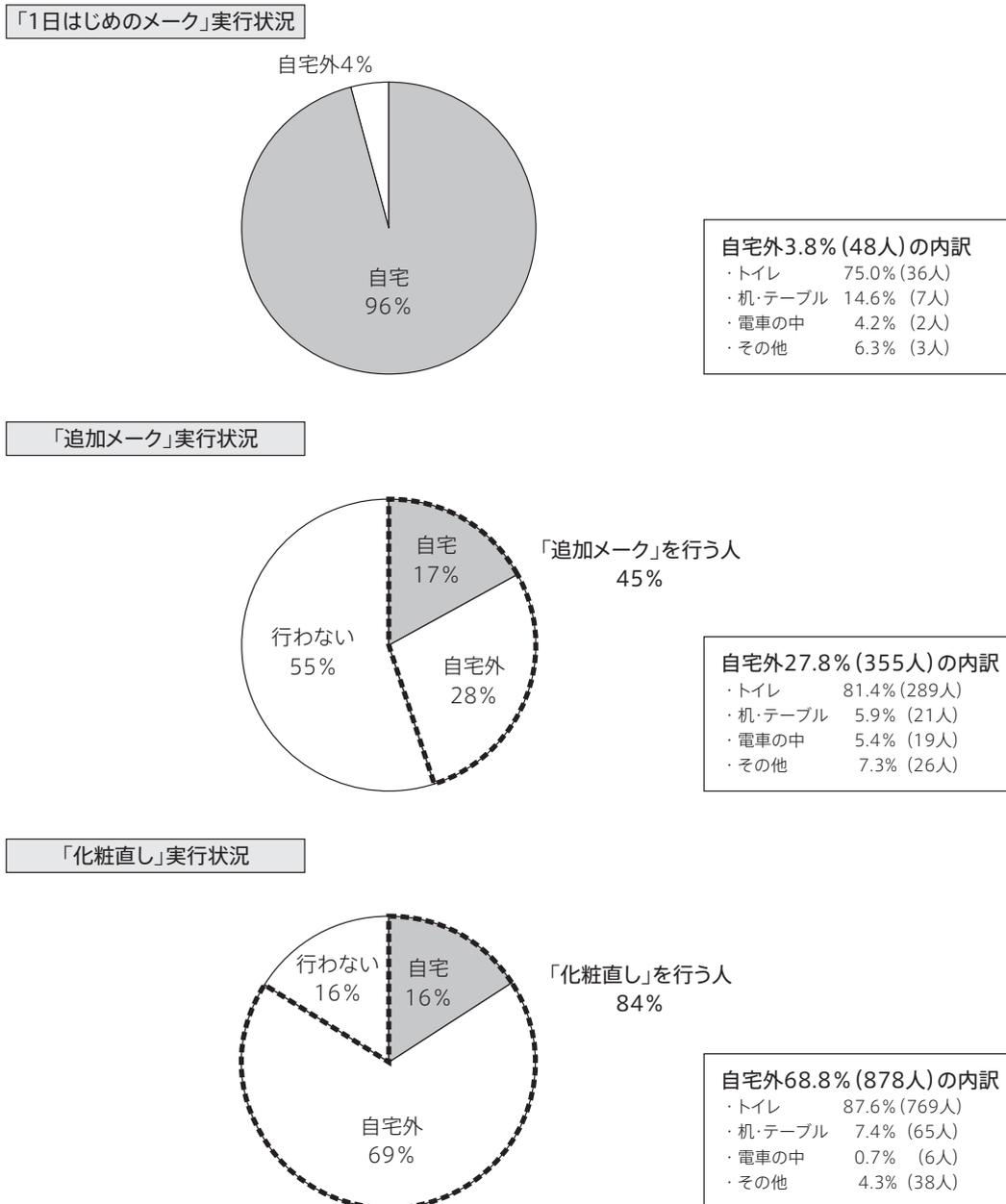
		(N)	もっと時間をかけて メイクをしたい	このままの時間でよい	もっと時間をかけずに メイクをしたい
全体		(1,276)	14	73	14
年代別	15～19歳	(117)	25	57	18
	20～29歳	(258)	18	62	19
	30～39歳	(257)	18	68	15
	40～49歳	(261)	11	77	12
	50～64歳	(383)	7	85	8
1日はじめの 所要時間 の メイク	1～5分	(173)	10	85	5
	6～10分	(354)	13	80	7
	11～15分	(294)	16	73	11
	16～20分	(225)	14	69	16
	21～30分	(172)	16	56	28
	31分以上	(58)	12	48	40

(%)

■ 「1日はじめのメイク」後の「追加メイク」を行う人はメイク実行者の約半数

メイクを行う場所をみると、メイク実行者のほとんど（96%）が自宅で「1日はじめのメイク」を行っている【図表9】。また、半数近くの45%が「1日はじめのメイク」後の「追加メイク」（※）を行う。最もよく行う場所は、自宅外が28%、自宅が17%。自宅外ではトイレが多い。「化粧直し」を行う人は84%に達し、最もよく行う場所は、トイレを中心とする自宅外となっており、69%を占める。

【図表9 「1日はじめのメイク」「追加メイク」「化粧直し」実行状況\_最もよく行う場所（各基数：メイク現実行者 1276人）】



※ 「追加メイク」は「1日はじめのメイク」の後に行う、「化粧直し」以外の追加のメイクを指す（例：自宅で「1日はじめのメイク」としてファンデーションを塗った後、外出先でリップメイクを「追加メイク」として行うケースなど）。

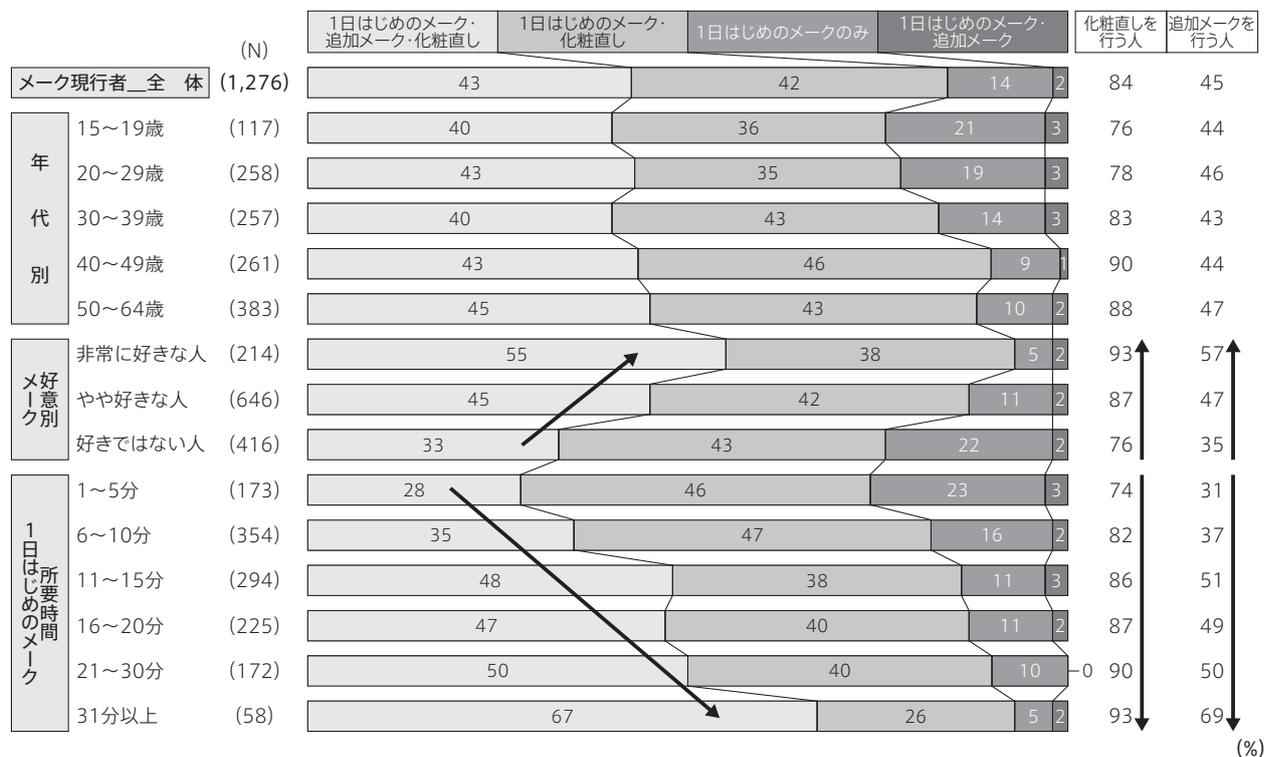
■メイクが好きな人、メイク所要時間が長い人ほど、さまざまなタイミングでメイクを行う様子

「1日はじめのメイク」「追加メイク」「化粧直し」の実行状況（組み合わせ）をみると、「1日はじめのメイク・追加メイク・化粧直し」「1日はじめのメイク・化粧直し」を行う人がともに約4割【図表10】。化粧直しを行う人の半数が追加メイクを行ったことがある状況。

メイク好意度別にみると、メイクが好きな人ほど「1日はじめのメイク・追加メイク・化粧直し」を行う人が多く、1日に複数回メイクを行うことが多いとみられる。メイクが好きではない人ほど「1日はじめのメイクのみ」の人数が増える。「1日はじめのメイク」所要時間別にみると、1日はじめのメイク所要時間が長い人ほど「1日はじめのメイク・追加メイク・化粧直し」を行う人が多い。1日はじめのメイクに時間をかける人は、「化粧直し」「追加メイク」も行う人が多い状況。

年代別では、若年層では化粧直しを行う人が少なく、若い人ほど「1日はじめのメイクのみ」が多い。

【図表10 「1日はじめのメイク」「追加メイク」「化粧直し」の実行状況\_組み合わせ（基数：メイク現実行者 1276人）】



※上グラフは、「1日はじめのメイク」「追加メイク」「化粧直し」別に実行経験をたずね、その結果を集計で組み合わせたもの。